

特集 建築 コンピューター インターネット

情報革命で変わる都市・建築

—インターネットの脅威

沖塩 莊一郎 (東京理科大学教授)

1. インターネットの威力

今やわが国でもインターネットは急速に普及しつつある。書店にはインターネットに関する本がうず高く積まれている。

—昨年春、インターネットに初めて触れ一昔前のビットネットしか知らなかった私は驚いた。一旦使うと止められない便利なものである。同時にこれは大変なことになった、建築も都市も大幅に変わる可能性がある、と感じた。

(1) E-mail (電子メール)

私に関わっている海外の大学の先生方は、例外なしにE-mailのアドレスを持つようになっておられた。5年前にビットネットでメールのやり取りをしようと当方から申し出た時、「電子メールなど嫌いだ、私は使わない」といっておられたマサチューセッツ工科大学のマイケル・ジョロフ所長も「今やE-mailは必需品」と変わっておられた。今や私も、海外や国内の大学、学会、企業などとの連絡にE-mailの便利さを満喫している。

(2) 個人対不特定多数とのコミュニケーション

(NetNews、電子掲示板)

インターネットのNetNewsやパソコン通信の電子掲示板のような、個人対不特定多数のコミュニケーションの場合は、かつてない便利さを持つとともに今後の社会活動に大きな影響を与えるものと思われる。

(3) 世界中の様々な情報が得られる(WWWなど)

インターネットには世界中の大学、研究機関、国、企業などが様々な情報を無料で提供している。学校案内、授業の内容、学生のレポート、美術館の展示品、図書館の本の内容、それぞれの国や機関の情報、店の商品など、ありとあら

ゆる物が含まれている。これは学校、大学、美術館、図書館、商店、デパートなどの在り方を根本的に変えてしまう可能性を持っている。

(4) テレビ会議

昨年私は毎週、マサチューセッツ工科大学客員研究員の仲隆介氏と、コーネル大学で開発され無料提供のインターネット用テレビ会議プログラム CU-SeeMe を用いて対話していた。これでは、世界中と8人までテレビ会議ができる。熊本大学の両角教授はCADの共同作業を遠隔地で行なう場合の道具としてテレビ会議を活用しておられる。

(5) ファイル転送

—ソフトウェアやデータが貰える

前述のCU-SeeMeなど、コーネル大学から自動的にいただくことができる。

(6) 大学だとすべてが無料、テレビ会議も無料

大学に籍を置いていると、インターネットはいくら使っても無料である。世界中の何処とメールのやり取りしても、テレビ会議も、前述の様々な情報も皆無料である。

電話料金が、専用回線料の形で大学などから支払済み(文部省から補助金もでている)であり、また多くの研究機関が情報を無料で提供しているからである。



東京理科大学のホームページ

2. 地球環境を考え、安全で精神的に豊かな環境創造と情報スーパーハイウェイ
PA誌1995年3月号のAsia Bound という特集では、近代化を目指すアジアの諸都市に、米国の建築家により、米国でと同じ様な考え方の超高層ビルが続々と建設されているが、これで良いのだろうか、と疑問を投げかけている。

カーネギーメロン大学 (CMU) のハートコフ教授は、「今、米国など先進諸国の一人当たり消費エネルギーは莫大である。そして、中国やインドなど開発途上の国の人たちも、生活水準を高めることに力を入れている。世界中の人たちが米国と同じ様なエネルギーの使い方をするようになった地球を想像してみなさい。一方、照明・冷暖房など建築の運用に用いられるエネルギーと建築を作っては壊し作っては壊するのに消費するエネルギーなど、建築に関わるエネルギー消費の合計は、全消費エネルギーの中の大きい比率を占めている。今こそ、建築に携わる者は、地球環境問題に真剣に取り組む必要がある」と力説しておられる。

今こそわれわれは、産業革命に劣らぬ社会の変革が予想される情報革新を、地球環境に配慮した、安全で精神的に豊かな環境創造に活用する方法の探究に力を注がねばならないと私は考えている。

情報社会の建築教育

マサチューセッツ工科大学

仲 隆介 (部16期)
東京理科大学

はじめに

一昨年の8月から1年間マサチューセッツ工科大学 (MIT) の都市・建築学部に客員研究員として席を置く機会をいただいた。その経験をもとに、MITの建築教育の一端を紹介したい。

MITではウィリアム・J・ミッチェル先生の「デジタル・コミュニティーズ」と「ヴァーチャル・デザイン・スタジオ」の二つの授業に参加した。情報環境を中心にこの二つの授業を紹介する。

デジタル・コミュニティーズ

この授業を取る学生は全員インターネットにアクセスできる必要がある。教室の変更や必要な連絡事項はすべてWWWのこの授業用ホームページで行われる。ティーチングアシスタント (TA、日本の授業嘱託にあたる) がこのホームページをメンテナンスしており、そこでは、

その週の授業を受ける前に読んでおくべき本や論文が毎週示され、学生はそれを読んで授業に参加する。授業が終わると、TAはその日の講義をまとめホームページにのせる。更に、学生はその週のテーマに関してレポートをまとめホームページに提出する。つまり、授業が終わると、講義のノートと学生の提出したレポートがホームページで読めるわけである。

学生は他の学生のレポートをいつでも見ることができし、休んだ授業の内容を確認することもできる。また、インターネットの特徴を生かして、この授業は他の大学で行われている関連した授業のホームページにリンクしており、このページを通じて授業に必要な殆どの情報が得られるのである。更に、学生はいろんな意見なり、質問なりをホームページに送り、ホームページはネットディスカッションの場にもなっていた。このように、このホームページは学生にとってとても有効なデータベースであり、更に言えば、ヴァーチャル教室に仕上がっていた。

そして、これにアクセスすることにより日本にいながら、MITのこの授業を聴講することも可能なのである。実際、理科大の研究室の学生の何人かはそうしていた。



ヴァーチャル・デザイン・スタジオ (VDS)

MITでは世界中に散らばる大学と共同でここ数年ヴァーチャル・デザイン・スタジオと称して、ネットワークを使った共同デザインの可能性を模索し続けている。私の参加した95年は主にWWWとビデオ会議ソフトを使って、いわゆる設計製図の授業をヴァーチャルに行っていた。特にデザインにおけるコミュニケーションの重要性に注目し、如何にネットワークを

使ってコミュニケーションをとるかに焦点が
あてられていた。

・Eメール

VDSに限らず、Eメールは学生、教師間の
コミュニケーションに欠くことのできないツ
ールとなっていた。Eメールによるディス
カッション授業 (Chat-Mail) から、学生および先生
からのデザイン批評、日々の連絡、スケジ
ュールの調整、質問、遊びの約束にいたるまで様々
なことに使われていた。すでにアメリカでは電
子メールは当たり前前のツールである。例えば、
僕と同年齢の人が離れた場所に住む自分の母親
と電子メールで毎日会話をしていたりする。



・ワールド・ワイド・ウェブ (WWW)

VDSにおいて、WWWはデジタルピンナ
ップボード (電子掲示板) の役割を果たして
いた。学生は与えられた課題をAutocadや
Radiance等のCADソフトを用いて設計を行
い、その過程や結果をWWWの自分のホーム
ページに載せる。すると、コーネル大学、シ
ンガポール大学、ケント大学など7つのVDS
参加校の学生や先生がそれを見て批評をMIT
の学生に送る。こうした批評と、定期的な先生
の指導によりデザインが進められていた。WWW
は有効なプレゼンテーションツールでもあるが、
ここではむしろデザインを進める上でのコミュ
ニケーションツールとしての有効性に注目して
活用されていた。

・(デスクトップ) ビデオカンファレンス

ネットワークコミュニケーションを支えるも
う一つのツールとして、ビデオカンファレン
スがある。VDSでは、コーネル大学で開発さ
れたCU-SeeMeというインターネット用のフリー
ウェアとMITで開発したピクチャーテルが使
われていた。今回の最終講習会はこれらの技術

を使ってMITとコーネル大学をネットワーク
でつないで行われた。学生はMITでWWWの
自分のホームページを使ってプレゼンテーシ
ョンを行い、MITとコーネルの先生がコメント
するという形で進められていた。

インターネットってなあに

天神 良久 (部17期)
(株)バス

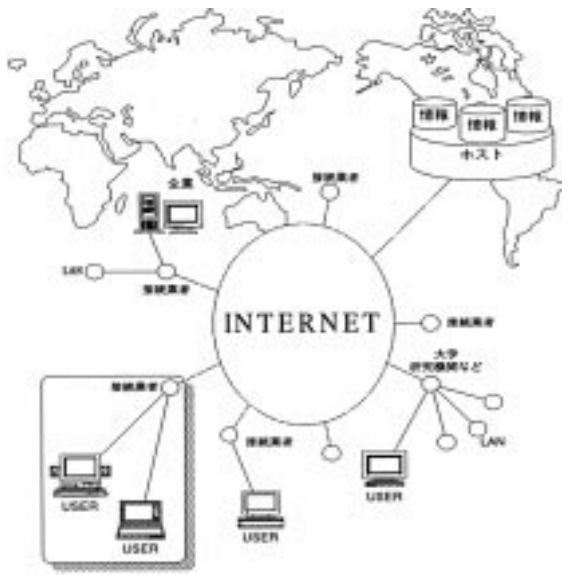
新聞を読んでいると、Windows、インター
ネット、CD-ROM等コンピューター用語が氾濫
しています。かくいう我が社でも、購入したパ
ソコンは既に150台を越え、仕事も建築設計を
しているのか、パソコンをいじっている (建築
CD-ROM、ソフトの販売) のかよく分からない
状況になりつつあります。最近インターネット
にも手を染めだし、事務所の通信費の請求書
を見るにつけ、がっくり肩を落としています。

さて、そこでこの場を利用して、おじさん達
のインターネット入門講座「インターネットっ
てなあに」を説明しようと思います。

インターネットとは

インターネットとは、パソコン通信に似たよ
うなネットワークと考えられていますが、その
起源をたどると軍用途に行き当たります。

60年代に、米国防省高等研究計画局 : ARP
A (=アルパ) が、核戦争が起きたときに中央
集中型の情報網では、中央の情報基地が攻撃さ
れると全ての情報機能が停止してしまう事を恐
れ、攻撃されてもダメージを最小限に抑えるこ
とのできる分散管理型情報網 (ネットワーク)
を考え出しました。ARPAの技術者は、当時
発表されたUNIXのOS (基本ソフト) を利



用して、異機種のコンピューター同士をいくつかの網の目のようにつなぐアルパネットと呼ばれる通信機能を作り上げました。その後アルパネットは軍事利用の枠を越え、民間も含む研究目的利用へと大きく変質していき、現在我々が利用しているインターネットはインターネットとなったのです。

現在のインターネット利用者は全世界で4千万人を突破し、150カ国以上に広がる巨大なネットワークになっています。インターネットは現在急速な成長を続け、ネットワークを行き交う情報は毎月15%の割合で増加しています。

なぜインターネットが普及したのか

インターネットの普及は、コンピューターネットワークの普及と置き換えると分かりやすくなります。このネットワークは、コンピューター情報を走らす高速道路です。ただこの道路は走るためだけの道路ではなく、道の両側には、お店や学校、美術館、図書館など様々な建物があり、立ち寄って見回したり捜し物をしたりしても良いし、そこから支線に入り友人の家に行ったり、手紙を出したりすることもできます。この高速道路を利用するには、料金所をくぐる必要があります。通常その料金所がホストと呼ばれ、ホストに毎月の契約料を払えば利用者はこの高速道路を利用できます。例えば、東京の料金所をくぐった利用者は、パリのルーブル美術館のデータベースに行ったり、ニューヨークの友人に手紙（電子メール）を出したり、様々な国の人と電子会議をすることもできます。そのうえ国際料金が一切かかりません。利用者が支払う代金は、東京からそのホストに電話する市内通話料金だけで済みます。

（現在我が社は、インターネットサーバーを所有しています。その中にArchiwebとネーミングされたホームページを掲載しています。アクセスは<http://www.archiweb.com/>です。世界の建築情報とリンクしていますので、是非見て下さい。）

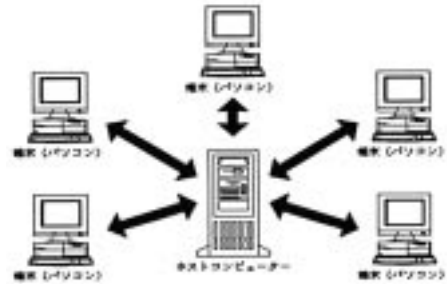
インターネットとパソコン通信の違い

電子メールや電子会議ならパソコン通信でも使えるのに、なぜインターネットが注目されているのか、パソコン通信とインターネットの違いはそれぞれのネットワークの中心がどこにあるかによります。

1) パソコン通信

パソコン通信は大規模な商用ネットから小人数の個人ネットまで様々ですが、共通しているのは、それら企業または個人がサービスを一元管理していることです。巨大なホストコンピューターに数万のパソコンがぶらさがり、い

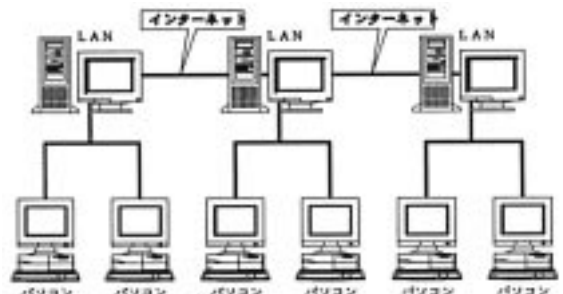
わゆる中央集中型ネットワークを構成しています。



2) インターネット

インターネットは無数のホストが分散して接続されています。ホストはスーパーコンピューターからパソコンまで多岐にわたり、それぞれがネットワークを運営しお互いがつながり、現在世界に350万を超えるホストが存在し大きなネットワークを形成しています。

例えば、電子メールを送信する場合、パソコン通信では、一度ホストコンピューターを通じてメールの受け渡しが行われますが、インターネットでは、世界中に張り巡らされたネットワークをたどってメールが電送されます。それゆえ、東京に居ながら簡単に世界旅行ができる様な、水平分散型のネットワークを構成しています。



おわりに

さて、なんとなくインターネットがおわかりいただけたでしょうか。日常的に利用している我々にとっては、情報の検索、送信、受信等毎日のように利用しています。また、徐々にビジネスにも結びついてきました。最近ではインターネットを利用したテレビ会議なども行っております。（ただし、回線の太さにより表示スピードに問題あり）。

最後に、このレポートを読んでパソコンショップに足を向けている諸先輩方に、パソコンは演算スピードが速く（100MHz以上）、モデムは内蔵（14,400bps以上）、メモリー（32MB以上）の機種の購入をおすすめします。

音と共に

峯村 敦雄 (部20期)
鹿島建設(株)技術研究所

今日はいつもの水曜日。私は仕事の引けた足で、お気に入りのコンサートホールへ駆けつけた。開演までにはまだ間がある。私はホワイエのカウンターバーで軽くのどを潤すことにした。今日は演奏もさることながら、以前から座席選定システムでチェックを入れていたG - 7の席がどんな響きをもたらししてくれるかが楽しみだ。開演と同時にコンサートホールに響きわたるオーケストラの音。音量といい余韻といい、なるほど私の好みにあった音である。

楽章の合間の静寂さ。聞こえるのは何人かの咳払いの音だけ。緊張の面もちで第2楽章始まりを待つ。おや！確かこのホールの下は駅のはずなのに、空調や発車のベルはおろか電車の音も聞こえない。コンサートが終え私はすばらしい演奏と、自分の為に用意された席を発見した喜びに浸りながら家路に着いた……。

なんていう生活ができれば幸せであるが、私はこんな音環境を提供することに喜びを感じている者の一人です。西に騒音があれば騒音計を片手に、東に振動があればピックアップを片手に日本全国(時には海外も)飛んで行く毎日です。しかも夜中でないと出来ないことが多く、宵っ張りの私には大変うれしい？仕事をしています。

理科大を卒業してからのおよそ9年の間、幸いにも大学で卒論あるいは修論で取り組んできた建築音響の分野に関わってこられました。また卒業後も再び久我先生のご指導を受ける機会が得られ、仕事をしながらも学位を取得することができました。

最近はまだ一度「建築」を学んだことの意義を振り返り、もう少し建築音響以外の分野へも裾野を広げられればと思っています。



ある1日

浜藺 浩美 (部15期)
(株)アルテス

「おはようございます」と明るい声で今日も会社での1日が始まった。アルバイトの女の子がいてくれるコーヒーの良い香りがオフィスに漂う。自席に着きコートを脱ぎながらライトとパソコンのスイッチを同時に入れる。“ピコッ”とパソコンが朝の挨拶をする。それに私もニコッと応える。(そんなことはしない)パソコンが立ち上がるまでお茶でも飲もう。紙コップを手に取り日本茶を入れる。少し病院での検査を思い出す。環境保護のため紙コップは1日ひとり1個である。ここで私の紙コップは決まりだ。今日も残業なので14時間ほどのお付き合いだ。ポチポチと皆がやってくる。従業員30人ほどの会社だが何故か社長・会長の他に部長が15人もいるのである。いわゆるおじさま達の楽園なのだ。不思議な会社である。不思議といえば、おじさま達の「おはよう」は何故「おう」なのか一度聞いてみたい。

さて、そろそろ仕事でもしようか。この会社の内容は“会社案内”を見ると設計、施工エンジニアリングとなっている。「私はそこで“エンジニア”として働いている。」などと書くとカッコいいが“お茶くみ・コピー取・雑用”をメインの業務としている。ここ2年は耐震診断ばかりである。耐震診断で何が大変かと言えばそれは報告書作りなのである。私の手は2本しかなくワープロやCADは指20本中10本しか使えないことをおじさま達は知っているのだろうか。そうこうしていると、何かFAXの辺りが賑やかだ。珍しく隣のグループのH部長が自分で送ろうとしたらしい。その横でそのまた隣のI部長がFAXの送り方を教えてあげているらしい。そっと見てみるとFAXからは相手先の女性のムツとした声が……。

ああ、1日分書こうとしたのに朝だけで終わってしまった。続きはまた今度。



OBのオフィス訪問

松本 剛氏（ 部17期）
松本剛建築研究室代表

95年から工学部建築学科の非常勤講師を務めている。担当は設計製図・ で、2年生が対象だ。学内のOBでは、 部11期の小暮渉氏（小暮渉建築研究室）も同講座を受け持つ。また95年度は古市徹雄氏（古市徹雄・都市建築研究所）などの学外出身者が加わり、総勢5人で取り組んだ。

この1年を振り返り、松本氏は次のように話す。「最近では設計やデザイン面に長けた学生が目立つようになってきているようだ。95年度の男子学生についても、2～3人が優秀だと感じた。3年生になると別の講師陣に習うことになるわけだがよい芽を大切に育てていってほしい。」

こうした半面、学生のほとんどが建築関連の書籍を読まない、設計課題の対象敷地を実際に見にいかないなど、設計に対する熱意のなさを感じるという。「例えば、学校を設計する課題を出す場合、階段の幅をどの程度にして、教室の天井高をどうするかなど基本的なことを自分で調べずに聞いてくる学生もいる。」あと3年ある講師の任期内にいかに学生のやる気を引き出すかが課題だ。

松本氏は大学を卒業後、林雅子氏らが共同主宰する林・山田・中原設計同人に5年3ヵ月間在籍。その後同事務所の先輩、諸角敬氏と一緒にSTUDIO A（アー）として活動を続けていた。松本剛建築研究室を設立して、独自で設計をはじめたのは約1年前のことだ。将来的には、生まれ故郷の兵庫県日高町に戻って、設計を続けていきたいとの思いがある。その前に、一人になって色々と経験を積もうと考えたのだ。

現在は、地元のいとこの家を設計する一方、知人の事務所の手伝いで、パチンコ店やレストラン、ボーリング場などからなる複合施設も手掛ける。これは、STUDIO Aの時代に、パチンコ店を設計した経歴を買われてのこと。多くの分野への取り組みは、これからの活動で大きな武器となるだろう。



'95年度 卒業制作・卒業設計

最優秀作品等決まる

卒業制作（ 部建築学科）

- ・最優秀作品
該当なし
- ・日本建築学会出品作品
鈴野 浩一 「境界線上の戦争資料館」



卒業設計（ 部建築学科）

- ・最優秀作品
田沼 哲 「工房街」



- ・日本建築学会出品作品
戸梶 大 「都市に住まう」



築理会新会員歓迎懇親会開かれる

去る3月18日築理会新会員となる学部卒業生（ ・ 部）を迎えての懇親会が「家の光ビル」で開かれました。

参加者は、会長、副会長はじめOB13名、真鍋先生、加藤助手、そして新会員から28名。新しい職場への熱い抱負が新会員から語られ、OB諸氏からは激励の言葉がかけられました。また、真鍋先生から、新会員とOBとの交流の大切さをお話し頂き、なごやかな一時を過ごしました。

頑張れ、新会員諸君！

幹事会及び

幹事と先生方との懇親会開かれる

去る1月19日(金)、年1回開催される築理会幹事会が理窓会館3階会議室で開かれた。八木会長、坂下副会長はじめ、20名が出席した。幹事会そのものは30分程で終了し、その後先生方をお招きしての懇親会となった。出席の先生方は部から平野、松崎、鈴木、伊藤の各先生方、それに部から杉山先生の5名であった。幹事同士の懇親はもちろんであるが、学内以外の幹事の方々は現在の理科大の先生方とお会いすることも少ないので、このような機会は貴重である。それに、先生方から築理会の今後のあり方などのご意見を伺わせていただき、有益であった。今後もこのような会が定期的に開かれ、お互いの存在意義が高められればと思う。(大岩記)

大学情報

(1) 研究室関係

沖塩先生、杉山先生の研究室は95年度でなくなりましたが、卒研生は両先生とも96年度もとられます。日笠先生は、95年度が最後の卒研生となりました。ただし講義の方はもたれるので、大学には来られます。

(2) 96年度から来られる専任の先生

- 部 安岡正人 教授(環境系)
(前:東大建築学科教授)
部 志水英樹 教授(計画系)
(前:東工大建築学科教授)

(3) 部 設計製図 非常勤講師

- 95年度で辞められた先生
古市徹雄 (古市徹雄・都市建築研究所)
木村誠之助 (木村誠之助総合計画事務所)
中村弘道 (中村弘道・都市建築計画設計研究所)
荒木正彦 (荒木正彦設計事務所)
藤木隆男 (藤木隆男建築研究所)
96年度から来られる先生
杉村憲司 (杉村フリーウッド建築事務所)
波多江建郎 (波多江建郎建築研究室、
工学院大学名誉教授)
野田正治 (ナウ環境計画研究所)
村田靖夫 (村田靖夫建築研究所)

インフォメーション

96年度 築理会研究セミナー

会場:理窓会館3階会議室
会費:各回 2000円
時間:19:00~20:30
(OB以外の方々の参加もお待ちしております。)

5月10日(金) 伊藤 裕久先生(計画)
「戦後の集合住宅(仮題)」

秋以降の予定

9月 吉沢 晋先生(環境)
10月 清水 昭之先生(材料・施工)
11月 OB(構造又は施工関係)

現場見学会のご案内

上野の森の美術館・博物館はいま一斉に増築工事が進んでいます。

そのうちのひとつ、東京国立博物館は、国宝の美術品を数多く所有している博物館ですが、渡辺仁の設計による本館は帝冠様式建築でも知られています。平成館はこの本館に隣接して建設され、平成10年にオープンいたします。

外装工事はほぼ完了、内装工事の最盛期ですが、展示システムや収蔵庫の工夫をご覧いただけます。

なおその他の美術館の工事現場についても可能な限り見学できるよう手配をする予定です。

日時 5月31日(金) 13:30~16:00
工事名 東京国立博物館平成館
施工者 鴻池組ほかJV
規模 SRC 3/1 18,000m²
所在地 台東区上野公園内
定員 30名(先着順)5/10(金)しめきり
申込方法 建築学科事務室内・
築理会事務局まで
FAX 3235-6897 にて受付
問合せ先 建築学科計画研・小泉助手
TEL 3260-4271(内線3482)

<新刊紹介>

部9期卒の大沢悟郎さんが本を出版されました。
大沢悟郎・大沢匠 共著
『家づくりの図集-3 3階建てのつくり方』
彰国社 96年4月発売 2,000円
なお「こがめの会」のメンバーとして「二世帯住宅その前に」(三省堂)にも執筆なされております。

《出版された方はご連絡下さい》

編集後記

私事ですが、この度転職をし、神戸へ行くこととなりました。今号で、私が編集長に就いてから3号目の会報となるのですが、年4回発行するという約束が果たせず心苦しく思います。しかし、他の委員及び、OBの方々のご協力により、その目標達成の流れは出来たのではないかと思っております。

私が卒業して12年になりますが、私達を取り巻く環境はめまぐるしく変わりました。その中で、やはり悩みや喜びを語り合い、気の許せる付き合いが出来たのは学生時代の同窓の方々が多かったと思っています。この点で、私は築理会の幹事をしていなかったと自負しております。

昨年、広島と仙台に支部が出来ました。上記の点より、関西地区に於いて、支部作りの一助になればと思っております。関西のOBの方々、宜しくお願い致します。

(久米 恵祐)

“築理会専用FAX”記事についての訂正

前号で築理会事務局に専用ファックスが設置されたとの案内を載せましたが、一部誤解を招く記事でしたので訂正します。このFAXは建築学科のものであり、学科事務室に設置されているものです。築理会としては使わせてもらっているもので専用FAXではありません。

すでに会員の皆様には住所変更等、かなり有効に利用していただいておりますが、今後とも一層の利用を宜しくお願いします。

なお皆様のご意見、ご感想、その他会報に載せたいという情報もお待ちしております。また住所等、変更事項もこちらで受け付けております。

0 3 - 3 2 3 5 - 6 8 9 7

募集します！

会報委員会では、築理会報に載せる記事を募集しています。「こんな特集して！」や「こんな宣伝がしたい！」や「最近これおもしろいよ！」など、あなたの身の回りの出来事から、世の中の大きな動向まで、とにかくレアな情報ならエヴリシングOK！

会報は年4回、1,4,7,10月に出る予定です。将来本を出したい方も、築理会報に記事を書いてライターへの第一歩を踏み出しましょう。築理会あてFAXにて。

築理会報96春号
96年4月発行 Vol.14

編集長：久米恵祐
編集委員：森清、細井友治、伊藤学、伊谷峰、平賀一浩
印刷：(株)菅原印刷

会費納入のお願い

春の訪れとともに新しい年度が始まり、築理会も新卒業生を迎え、さらなる躍進をとげようとしております。

この度新年度を迎え、平成8年度分の会費納入をお願いすることとなりました。

同封の振込用紙にて会費を納入して下さい。

今後の築理会発展のためにご協力をお願いいたします。

口座名 築理会

郵便振替 東京1-171952

銀行振込 三菱銀行神楽坂支店 普通 4335597

データ確認カード返送のお願い

現在、名簿作成委員会では築理会会員の皆様のデータ-新作業に着手しています。

住所、職場、部署等に変更のございます方は、下記データ確認カードにご記入の上、築理会事務局までご返送下さいませお願い致します。

最新データに基づいた名簿作成、編集のためご協力をお願い致します。

送付先：建築学科事務室内・築理会事務局
名簿作成委員会

築理会員データ確認カード		記入日：19 / /
ふりがな：	卒業年	年3月
名前： (旧姓)	(期 研)	
	<input type="checkbox"/> 。部	<input type="checkbox"/> 「部
ふりがな / 勤務先：		
ふりがな / 部署・役職：		TEL
		FAX
電子mail：		
現住所：(〒)		
		TEL
		FAX
電子mail：		
現住所以外の安定的な連絡先、具体的な連絡方法及びTEL：		
所属学会	<input type="checkbox"/> 日本建築学会	()
()	()	()
通信欄		

お手数ですが拡大コピーをしてFAXにてお送りください。